

(学年) 第1学年, (教科・科目) 芸術・書道 I

個別学習

(単元) 行書の古典 顔真卿「争坐位文稿」

(本時のねらい)

- ・顔真卿の大胆な運筆や、重厚で抑揚のある線質を理解・習得させる。
- ・作品背景を踏まえ、筆勢を大切に臨書させる。また、感情表現や自己表現の方法を学ばせる。

(ICT活用方法)

顔真卿の書の特徴を教師の示範動画視聴により確認し、課題の作成を行う。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 5分	・前時の活動を振り返り、「争坐位文稿」の概要・書風について復習する。	・前時の提出作品(黒板に掲示)を確認させながら、「争坐位文稿」の作品背景や書風について振り返らせる。	
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動内容・目標を確認する。</li> <li>・☆(基本点画)の練習で、中鋒と突き返しの練習をする。</li> <li>・本時の課題「不朽②」の示範を見る。</li> <li>・半紙で「不朽②」の制作を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本やプリントで示しながら、確認させる。</li> <li>・水書板を使用し、中鋒と突き返しについて説明する。中鋒で強い線は、顔真卿の書につながることを理解させる。</li> <li>・木偏の筆順説明</li> <li>・二班に分けて示範を行う。</li> <li>・本時の目標や、「不朽②」を書く際の注意点、顔真卿の書の特徴を確認させる。(筆順・中鋒・藏鋒・逆筆・重厚感・抑揚・反動等)</li> <li>・本時の課題の示範動画を前で流し、筆順やポイントを各々で確認させる。</li> <li>・完成作品を仕上げ、提出させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予め撮影していた示範動画をプロジェクタで投影する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の作品を振り返り、「不朽①」と「不朽②」の作品の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔真卿の行書の特徴や、本時の目標を踏まえて振り返りさせる。</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容を振り返る。</li> <li>次時の予告を聞く。</li> <li>片付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品背景と、それに基づく表現，顔真卿の書の特徴などを再度確認させる。</li> <li>次時に行う作業を確認させる。</li> </ul>

(授業の様子)



課題の師範を見る



教師の師範動画によりポイントを確認

(生徒の反応と課題・改善を要する点)

先人が遺した感情の書を学ぶことで、生徒自身の表現の幅を広げ、書道における自己表現が自在にできるようになってほしいとのねらいを伝え、その軸をぶらさずに授業を終えることができた。今回取り扱った書は、行書体であるため筆順や形が複雑となっている。そのため、生徒に書かせる前に示範してみせるのだが、一度の示範だけでは筆順や運筆法を覚えられない生徒がいる。そこで、授業支援アプリに教師の示範動画を貼り、プロジェクタを用いて全体に共有するという試みを行った。実際に書く際に、確認する生徒がいたため非常に効果的だと感じたが、繰り返し再生機能が見当たらなかったため、少し不便さを感じた部分はあった。